

社会1：予防と健康管理・増進（1）：予防医学と健康増進

日時：9月8日（火） 3時限

担当者：太田 晶子(社会医学)

内容：

1. 公衆衛生の概念と機能について説明できる。
2. 健康、障害と疾病の概念について説明できる。
3. 社会と健康・疾病との関係について説明できる。
4. 予防医学の概念と方法について説明できる。
5. 健康保持・増進の概念について説明できる。
6. 健康管理の概念と方法について説明できる。
7. 健康教育・学習、保健指導、健康相談について説明できる。
8. 健康診断・診査と事後指導について説明できる。

コア・カリキュラム平成28年度改訂版：B-1-4)、B-1-6)

キーワード：

WHO憲章、公衆衛生、C.E.A.Winslow、コミュニティヘルス、国際生活機能分類<ICF>、ノーマライゼーション、生活の質(QOL)、ACP、予防医学、一次予防、二次予防、三次予防、健康増進、ヘルスプロモーション、population strategyとhigh risk strategy、健康教育、保健指導、健康相談、行動変容、健康診断・診査、検診、スクリーニング、感度、特異度、ROC曲線、事後指導

教科書：

国民衛生の動向

準備：

医師国家試験出題基準令和6年版【医学総論】Ⅱ予防と健康管理・増進を概観しておく。

国民衛生の動向 第1編第1章わが国の衛生を取り巻く社会状況と保健医療を読んでおく。(30分)

社会2：予防と健康管理・増進（2）：人口統計・保健統計

日時：9月11日（金） 2時限

担当者：高橋 美保子(社会医学)

内容：

1. 人口静態統計・人口動態統計の仕組みを説明できる。
2. 日本の人口、世界の人口と問題点を説明できる。
3. 人口動態統計5事象に関する指標の現状、平均寿命について説明できる。
4. 国際疾病分類について説明できる。
5. 国民生活基礎調査、患者調査から得られる指標とその現状について説明できる。
6. 我が国の人口構造、疾病構造、家族形態の変化について説明できる。

コア・カリキュラム平成28年度改訂版：B-1-4)

キーワード：

国勢調査、人口指数、再生産率、年齢調整死亡率、生命表、国際疾病分類(ICD)、有訴者率、通院者率、受療率、平均在院日数

教科書：

国民衛生の動向

準備：

①国民衛生の動向 第2編 衛生の主要指標を読んでおく。(30分)

復習：

②公衆衛生がみえる 公衆衛生と疫学・統計 保健統計

①を読み、さらに②を読み、理解を深める(20分)。

社会3：予防と健康管理・増進(3)：疫学

日時：9月11日(金) 3時限

担当者：太田 晶子(社会医学)

内容：

1. 疫学概念について説明できる。
2. 疫学指標を列挙し、その特徴を説明できる。
3. 疫学研究デザインとして、観察研究(記述疫学、横断研究、症例対照研究、コホート研究)について説明できる。
4. 疫学研究デザインとして、介入研究(ランダム化比較試験等)について説明できる。
5. システマティックレビュー、メタ分析<メタアナリシス>について説明できる。
6. バイアス、交絡について説明できる。
7. 臨床疫学的指標について説明できる。

コア・カリキュラム平成28年度改訂版：：B-1-3)、B-1-4)

キーワード：

頻度と分布、リスクファクター、標本抽出、疫学的因果関係、ヒルの基準(関連強固性、時間性、一貫性、整合性、量反応関係、生物学的妥当性など)罹患率、有病率、死亡率、相対危険、寄与危険、オッズ比、統計解析、検定と推定、生存分析、記述疫学、分析疫学、横断研究、症例対照研究、コホート研究、介入研究、臨床試験、ランダム化比較試験(RCT)、プラセボ、システマティックレビュー、メタ分析(メタアナリシス)、偶然誤差、バイアス、交絡因子、年齢調整死亡率、標準化死亡比(SMR)、感度、特異度、尤度比、ROC曲線、検査前確率、検査後確率

教科書：

公衆衛生がみえる2024-2025. メディックメディア、基礎から学ぶ楽しい疫学第5版. 医学書院

準備：

上記キーワードについて復習しておく。該当範囲の国家試験問題を解いておく。(30分)

社会4：予防と健康管理・増進(4)：医療制度

日時：9月16日(水) 1時限

担当者：太田 晶子(社会医学)

内容：

国家試験頻出の臨床問題を通して、地域医療、地域保健対策を学ぶ。

1. 地域における健康危機管理について説明できる。
2. 地域におけるチーム医療について説明できる。
3. へき地・離島における患者への対応について説明できる。
4. 地域保健・地域医療について説明できる。
5. 保健・医療・福祉・介護の資源と連携について説明できる。
6. 地域医療と医療計画について説明できる。
7. 医療提供体制の現状と課題について説明できる。

コア・カリキュラム平成28年度改訂版：B-1-7)、B-1-8)

キーワード：

健康危機管理、食中毒、保健所、チーム医療、多職種連携、へき地医療・救急医療の確保、離島医療、病診連携、ケア会議、社会福祉、地域保健・地域医療、地域保健法、保健所、市町村保健センター、健康危機管理、医師会、医療連携、地域社会との連携、自治体との連携、医療法、医療提供施設、医療計画、医療圏、地域医療構想、基準病床数、病床機能、地域医療支援病院の整備、5疾病5事業、在宅医療、病院・診療所・薬局の連携、地域包括ケア、医療従事者の確保、地域医療支援センター、地域連携、訪問看護、在宅介護、

教科書：

- ◆ 公衆衛生が見える2024-2025. メディックメディア

参考書：

- ◆ 国民衛生の動向

準備：

キーワードについてこれまでの講義や参考書に基づきノートにまとめておく。(20分)

社会5：予防と健康管理・増進(5)：生活習慣病対策

日時：9月17日(木) 4時限

担当者：宮崎 利明(社会医学)

内容：

生活習慣病の疫学と予防対策を学び、国家試験の臨床問題を通して、生活習慣病予防、保健指導の実施について理解を深める。

1. 主な生活習慣病の罹患と死亡の現状と動向について説明できる。
2. 主な生活習慣病の危険因子(リスクファクター)について説明できる。
3. 健康日本21、喫煙対策について説明できる。
4. 特定健康診査、特定保健指導について説明できる。
5. 生活習慣病指導に必要な医療面接の方針を説明できる。
6. 健康診断・人間ドッグの結果から、対象の病態を解釈し、リスクを評価できる。
7. 受診勧奨、保健指導を行う基準を説明できる。

キーワード：

生活習慣病、死亡率、罹患率、1次予防、2次予防、がん、心疾患、脳血管疾患、糖尿病、メタボリックシンドロームの概念、危険因子(リスクファクター)、喫煙、受動喫煙、健康日本21、特定健康診査、特定保健指導、受診勧奨、がん検診、高齢者医療確保法、健康増進法、がん対策基本法、健康診断、食事指導、運動指導、生活指導、行動変容モデル

準備：

当該領域の臨床問題を復習する。(30分)

社会6：予防と健康管理・増進(6)：感染症対策

日時：9月17日(木) 5時限

担当者：亀井 美登里(社会医学)

内容：

1. 感染症の予防対策について説明できる。
2. 感染症法による感染症対策の理念、感染症類型の特徴と類型別の対応について説明できる。
3. 感染症対策における医師と自治体の役割、対応について説明できる。
4. 感染症発生動向調査<サーベイランス>について説明できる。
5. 予防接種法による、予防接種の考え方と予防接種について説明できる。
6. 検疫について説明し、検疫感染症を挙げることができる。
7. 結核、AIDS等主な感染症の疫学と予防対策について説明できる。

キーワード：

新興感染症、再興感染症、感染源、感染経路、感受性、感染症法、感染症類型、医師と自治体の対応、感染症指定医療機関、積極的疫学調査、感染症発生動向調査、指定届出機関、予防接種法、集団予防と個人予防、生ワクチン、不活化ワクチン、mRNAワクチン、検疫法、検疫感染症、結核の疫学と予防、HIV・AIDSの疫学と予防、性感染症

教科書：

国民衛生の動向

準備：

国民衛生の動向 第3編第3章感染症対策を読んでおく。(30分)

社会7：予防と健康管理・増進（7）：母子保健と学校保健

日時：9月18日（金） 3時限

担当者：高橋 美保子(社会医学)

内容：

1. 母子保健の現状と動向を説明できる。
2. 母子健康手帳の意義について説明できる。
3. 女性労働者の母性保護にかかわる法律を列挙し、保護規定を説明できる。
4. 健康診断、医療援護、マスキング検査の目的、対象、事後指導について説明できる。
5. 胎児に影響を及ぼす環境因子について説明できる。
6. 学校保健の現状と動向を説明できる。
7. 学校医と保健管理について説明できる。

コア・カリキュラム平成28年度改訂版：B-1-6)、B-1-7)、B-1-8)、B-1-9)

キーワード：

母子保健指標、母子保健法、公費医療、産休・育児休業制度、人工妊娠中絶、学校保健安全法、学校医、健康診断、学校感染症、被患率

教科書：

国民衛生の動向

準備：

国民衛生の動向の下記①～④を読んでおく（30分）。

- ①第2編 第2章4. 妊産婦死亡～7. 乳児死亡
- ②第3編 第2章1. 母子保健
- ③第10編 1.2]保健管理
- ④第10編 4. 学齢期の健康状態

復習：

- ①～④を読み、さらに公衆衛生がみえるの下記⑤～⑥を読み、理解を深める（20分）。
- ⑤保健と福祉 母子保健
- ⑥保健と福祉 学校保健

社会8：予防と健康管理・増進（8）：精神保健

日時：9月18日（金） 4時限

担当者：高橋 美保子(社会医学)

内容：

1. 精神保健の現状と動向について説明できる。
2. 精神保健福祉法の概要について説明できる。
3. 地域精神保健福祉活動における保健所、精神保健福祉センターの機能について説明できる。
4. 精神障害者の入院形態について説明できる。
5. 精神障害者の自立支援について説明できる。
6. 精神障害者社会復帰施設の種類と機能について説明できる。
7. 自殺の疫学と予防対策について説明できる。

コア・カリキュラム平成28年度改訂版：A-7-1)、B-1-7)、B-1-8)

キーワード：

精神保健福祉法、精神保健福祉センター、精神保健指定医、精神医療審査会、精神障害者保健福祉手帳、保健所、障害者総合支援法、自立支援医療、精神障害者社会復帰施設、自殺対策

教科書：

国民衛生の動向

準備：

①国民衛生の動向 第3編 第2章 4.精神保健を読んでおく。(30分)

復習：

②公衆衛生が見える 保健と福祉 精神保健福祉

①を読み、さらに②を読み、理解を深める(20分)。

社会9：予防と健康管理・増進(9)：環境保健

日時：9月18日(金) 5時限

担当者：宮崎 利明(社会医学)

内容：

1. 環境が人に与える健康影響との相互作用について学び医師国家試験に対応した内容の理解を深める。
2. 地球環境の変化と健康影響について説明できる。
3. 大気汚染の成因、大気汚染物質の種類、健康への影響、予防対策、エピソードについて説明できる。
4. 一般廃棄物、産業廃棄物、医療廃棄物、感染性廃棄物の処理について説明できる。
5. 浄水法と水質基準について説明できる。
6. 下水処理法と下水の水質について説明できる。
7. 居住環境に起因する疾病について説明できる。
8. 公害の原因と発生状況について説明できる。
9. 環境汚染の評価と対策について説明できる。

キーワード：

内部環境・外部環境、適応・馴化(順化)、食物連鎖、生物濃縮、地球環境問題、地球温暖化、酸性雨、砂漠化、オゾン層破壊、大気汚染物質、SO_x、NO_x、光化学オキシダント、降下煤塵、PM2.5、大気汚染エピソード、一般廃棄物、産業廃棄物、医療廃棄物、感染性廃棄物、バイオハザードマーク、上水道、浄水法、不連続点塩素処理法、水質基準(亜硝酸性窒素および硝酸性窒素、塩素イオン、一般細菌、大腸菌群)、下水道、下水処理(嫌気性処理、好気性処理)、下水の水質(生物化学的酸素要求量、化学的酸素要求量、溶存酸素量、浮遊物質、n-ヘキササン抽出物質、大腸菌群)、水俣病、第二水俣病、イタイイタイ病、冷房病、シックハウス症候群、sick building syndrome、土壌汚染、悪臭、ダイオキシン、公害、環境基準、排出規制、環境モニタリング、環境影響評価

教科書：

◆ 公衆衛生が見える 2020-2021

参考書：

◆ 国民衛生の動向 2020/2021

準備：

公衆衛生が見える 2020-2021 p 408-433 を読んでくる。30分

社会10：予防と健康管理・増進(10)：産業保健

日時：9月24日(木) 2時限

担当者：宮崎 孝(社会医学)

内容：

働く人の健康を衛る産業保健と産業医活動について学び医師国家試験に対応した内容の理解を深める。

1. 労働衛生関連法規について説明できる。
2. 労働衛生の5管理について説明できる。
3. 事業所の衛生管理組織について説明できる。
4. 生物学的モニタリングについて説明できる。

5. 産業医の資格と職務について説明できる。
6. 産業災害の原因、発生状況、予防対策について説明できる。
7. 職業癌の定義、特徴、原因物質、発生臓器、管理、対策について説明できる。
8. 職業病の定義、予防対策について説明できる。

キーワード：

労働衛生関連法規、安全衛生管理体制、作業環境管理、許容濃度、管理濃度、作業管理、健康管理、労働衛生教育、総括管理、生物学的モニタリング、職業性疾患、作業関連疾患、業務上疾病、産業災害、労働衛生行政、一般健康診断、特殊健康診断、事後指導、THP、長時間労働対策、職場のメンタルヘルス、産業医、労働者災害補償保険、労災事故、業務上疾病、じん肺、職業癌、職業性頸肩腕障害、VDT作業

準備：

公衆衛生が見える 2020-2021 p 350-407、国民衛星の動向 2020/2021 p 319-330 を読んでくる。 20分

社会 11：予防と健康管理・増進（11）：国民栄養と食品の安全性

日時：9月24日（木） 3時限

担当者：宮崎 孝(社会医学)

内容：

1. 栄養の概念を理解する。
2. 国民健康・栄養調査の方法、国民栄養の現状、問題点について説明できる。
3. 食品の安全性と機能性について説明できる。
4. 食品健康危機管理について説明できる。
5. 自然毒食中毒について説明できる。

キーワード：

食事摂取基準、推定エネルギー必要量、推定平均必要量、推奨量、目安量、目標量、上限量、1日許容摂取量（ADI）、実質的安全量（VSD）、食品安全基本法、食品安全委員会、食品添加物、遺伝子組み換え食品、牛海綿状脳症、保健機能食品、特別用途食品、健康食品、自然毒食中毒、キノコ中毒、その他の植物性自然毒、フグ中毒、化学性食中毒、アレルギー様食中毒、カビによる食中毒、食品に混入した有害物質による食中毒、ヒ素中毒事件、カネミ油症事件

準備：

STEP 公衆衛生第13版 第8章 国民栄養と食品保健(p207-221)に目を通しておくこと(約10分)。